

| | | | |
|-----------|------------|------|---|
| 講義名 | 憲法 | | |
| 科目区分 | 教養一般 | | |
| 担当教員 | 柴田 堯史 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 月曜日 2時限 | 授業形態 | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 主題と概要 | | | |
| <p>小学校、中学校、そして高校において、憲法の重要性(立憲主義)や日本国憲法の三大原理(国民主権、平和主義、基本的人権の尊重)について学ぶが、「これらが何を意味し、どの条文でどのような内容として明確に規定されているのか」について深く学ぶことは非常にまれである。本講義は、具体的な事例である最高裁判所の判例を中心に、憲法の意味と内容を理解することを目的としている。</p> | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 到達目標 | | | |
| <p>(1) 学生が以下の2点を理解し、説明できるようになることが到達目標である。 1. 人権とは何か、また日本国憲法はどのような人権を規定しているのか 2. 日本の統治の原理と仕組み</p> | | | |

| | | | |
|-------------|--|--|--|
| 提出課題 | | | |
| 特になし | | | |

| | | | |
|----------------------------------|--|--|--|
| 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック | | | |
| 学生からの質問については、次回の講義でフィードバックする。 | | | |

| | | | |
|--------------|--|--|--|
| 評価の基準 | | | |
| 試験100% | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 履修にあたっての注意・助言他 | | | |
| <p>【履修上の注意】 1. 講義中の食事・私語など受講態度がひどい場合は厳しく対応する(受講態度が著しくひどいと判断される場合は、学生証を確認の上、途中退出を命じることもある) 2. スマートフォンは、音をならさないようにして、机の上に置いたり、ポケットに入れるのではなく、カバンの中にしなうこと 3. 大学生として良識を持って受講すること</p> <p>【コメント】 18歳に選挙年齢が引き下げられ、高校における政治教育(「主権者教育」)が必要とされている。「日本」の政治システムを取り扱う本講義は、それに直結するものであるため、教員を志望する学生は、自身の専攻や興味関心にかかわらず、積極的に取り組むことを勧める。</p> | | | |

| | | | | |
|---------------|------|------|-----|----------------|
| 教科書 | | | | |
| . 憲法への招待(新版). | 渋谷秀樹 | 岩波書店 | 924 | 978-4004314707 |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| プリント資料及び参考文献 | | | | |
| 【講義資料】 穴埋め式の講義資料を配布。 | | | | |
| 【参考文献】 岡田弘弘『事例から学ぶ日本国憲法』(放送大学教育振興会、2013年) 伊藤正己『憲法入門(第4版補訂版)』(有斐閣、2006年) | | | | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位) | | | |
| 第2回 | 人権とは何か(1)――「人権享有主体性」(第2章6) | | | |
| 第3回 | 人権とは何か?――「私的効力」論(第2章7) | | | |
| 第4回 | 人権とは何か(2)――「幸福追求権」(第2章8) | | | |
| 第5回 | 人権とは何か(3)――「法の下平等」(第3章9) | | | |
| 第6回 | どのような人権が規定されているか(1)――「信教の自由」(第3章11) | | | |
| 第7回 | どのような人権が規定されているか(2)――「表現の自由」(第3章12) | | | |
| 第8回 | どのような人権が規定されているか(3)――「財産権」と「生存権」(第3章14、15) | | | |
| 第9回 | どのような人権が規定されているか(4)――「選挙権」(第3章16) | | | |
| 第10回 | 政治システムの原理(1)――法の支配(第1章3) | | | |
| 第11回 | 政治システムの原理(2)――権力分立(第4章17) | | | |
| 第12回 | 政治システムの原理(3)――民主制(第4章18) | | | |
| 第13回 | 政治システムの内容――議会＝立法、政府＝行政、裁判所＝司法(第5章21、22、23) | | | |
| 第14回 | 憲法とは何か(1)――「憲法制定」と「憲法改正」(第1章4) | | | |
| 第15回 | 憲法とは何か(2)――「近代憲法」とは(第1章1、2) | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | |
| *カッコ内は教科書の該当箇所 *講義の進行によっては変更することもある | | | | |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業形態(アクティブ・ラーニング) | |
| ア: | PBL(課題解決型学習) |
| イ: | 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| ウ: | ディスカッション、ディベート |
| エ: | グループワーク |
| オ: | プレゼンテーション |
| カ: | 実習、フィールドワーク |

| | |
|--|--|
| 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 | |
| <p>授業資料(穴埋め式)を事前に配布するので、教科書を参考に穴埋めをしてください。 個人差はあるが、予習にはおよそ2時間程度かかる。</p> <p>大半の受講者にとって法律の学習はなじみがなく、難解に感じられると思うので、授業資料の各章の最後にある「学習の目標」を参照し、なるべくこまめに復習をすること。</p> | |

| | |
|-------------------------------|--|
| 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 | |
| | |

| | |
|--------------------|--|
| 実務経験の有無及び活用 | |
| | |

| | |
|-----------|--|
| 備考 | |
| | |